

|  |   |                    |   |
|--|---|--------------------|---|
| <h1 style="font-size: 2em;">指導資料</h1> <p>鹿児島県総合教育センター<br/>令和3年4月発行</p> | <h1 style="font-size: 2em;">国語 第153号</h1> |                    |  |
|  | <b>対象校種</b>                               | 中学校 義務教育学校<br>高等学校 |   |

生徒が主体的に課題解決に取り組む高等学校国語科の授業  
～生徒が学習過程を把握して言語活動を選択し、課題解決を図る授業実践を通して～

生徒が主体的に授業に取り組むには「どのように学ぶか」という学習の見通しをもつことが必要である。新しい学習指導要領に示された内容を読み解き、大学入学共通テストの問題、授業実践例をヒントに、生徒が主体的に取り組む高等学校国語科の授業の具体的な手立てを考える。

## 1 高等学校国語科の授業に求められるもの

令和4年度入学生から年次進行で実施となる高等学校学習指導要領では、言語活動を通してどのような資質・能力を育成するのかを示すため、各領域において、**学習過程を一層明確にし、指導事項を位置付けている(資料1)**。

また、2021年度大学入学共通テスト「国語」の問題においては、資料2に示すように「Nさん」が授業で読んだ文章の内容を理解するために**学習の過程を踏まえ主体的に取り組む場面が設定されている**。

以上のことは、生徒が学習課題を解決するために「どのように学ぶか」という視点を踏まえ主体的に学ぶことの重要性を示していると考えられる。

## 2 生徒が主体的に授業に取り組むには

「どのように学ぶか」ということを生徒が主体的に考え、授業に取り組むためには、単元において「何を学ぶか」、「何ができるようになるか」を生徒が明確に把握しておくことが必要である。そのためには、生徒が興味・関心をもてる学習課題設定が重要である。(指導資料 国語 150号参照。)

資料1 「文学国語」指導事項(授業実践例と関連)

### 「文学国語」B 読むこと 指導事項

|   |                        |
|---|------------------------|
| (1) 読むことに関する次の事項を身につけることができるよう指導する。                                   | 学習過程                   |
| ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。                               | 精査と内容の把握<br>(アが該当)     |
| イ 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。                      | 精査・解釈【①】<br>(イ、ウ、エが該当) |
| ウ 他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察すること。                                   |                        |
| エ 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。                                |                        |
| オ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えたとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。 | 精査・解釈【②】<br>(オが該当)     |
| カ 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めること。                     | 考えの形成、共有【①】<br>(カが該当)  |
| キ 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。                       | 考えの形成、共有【②】<br>(キが該当)  |

今回の学習指導要領の改訂において、指導事項は学習過程を一層明確にして示されています。



資料2 2021年度 大学入学共通テスト「国語」第1問 問5の内容

#### 第1問 問5 問題文

この文章を授業で読んだNさんは、内容をよく理解するために【ノート1】～【ノート3】を作成した。本文の内容とNさんの学習の過程を踏まえて、(i)～(iii)の問いに答えよ。

〈問い(i)～(iii)に示されているNさんの学習の過程〉

- (i) 【ノート1】それぞれの段落に見出しをつけて整理する。
- ↓
- (ii) 【ノート2】本文で述べられている近世から近代への変化をまとめる。
- ↓
- (iii) 【ノート3】【ノート2】を作成し興味をもったので、本文の出典を読み、出典にある引用をヒントに考察を進める。

さらに、「どのように学ぶか」を生徒が主体的に考え、学習課題を自分事として捉え、課題解決のために取り組むためには、学習過程や学習方法を自己決定させることが考えられる。しかし、最初から生徒一人一人が自ら学習過程を考え、学習方法を決定するのは困難である。そこで、本稿では学習過程を生徒に把握させ、主体的に取り組ませるための手立てとして、学習課題を解決するための言語活動を生徒が選択できるよう工夫した取組を提案する。

### 3 生徒が学習過程を把握して言語活動を選択し、課題解決を図る授業実践例

生徒が主体的に授業に取り組む授業実践例について次頁以降に挙げる1～4の視点から考える。（「現代文B」の単元を「文学国語」にアレンジして紹介する。）

| 「文学作品を読み味わう」授業実践例   |   |  |   |   |
|---|---|--|---|---|
| 1 単元名   |   |  |   |   |
| 『たけくらべ』を自分の世界観で表現し、読み味わおう。  |   |  |   |   |
| 2 単元で育成する資質・能力  |   |  |   |   |
| ○ 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。<br>【思考力、判断力、表現力等】(B読むことカ)   |   |  |   |   |
| 3 単元の評価規準   |   |  |   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解することができる。【知識・技能】(1)ア</li> <li>作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。【思考・判断・表現】(B読むことカ)</li> <li>言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを主体的に身に付けるとともに『たけくらべ』の内容や解釈を踏まえ、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul> |   |  |   |   |
| 4 単元計画  |   |  |   |   |
| 次   | 時 | 学習活動   | 教師の手立て  | 具体的評価規準と評価方法  |
| 第一<br>次   | 1 | 1 『たけくらべ』を音読し、内容を<br>読み取る。<br>2 分からなかった内容や表現等にも<br>触れて、初発の感想をもつ。<br>3 本単元の目標を理解し、読み味<br>わうために学習したいことを書<br>く。   | ・ 傍注や現代版『たけくらべ』<br>などを活用し、大まかな内<br>容を把握させる。<br>・ 「学習したいこと」がない<br>という生徒には、これまで<br>の言語活動を想起させてみ<br>る。   | 【評価規準】<br>『たけくらべ』を読んで言<br>葉には、想像や心情を豊かに<br>する働きがあることを理解す<br>る。(知識・技能)<br>【評価方法】<br>行動の観察                  |
|   | 2 |  |   |   |
|   | 3 |  |   |   |
| 第二<br>次   | 3 | 1 級友と初発の感想を共有し、読<br>み味わうためにどのような方法で<br>学ぶのかを共有する。<br>ア 作者・作品の背景を調べる。<br>イ リライトする。<br>ウ 詩と比較する。<br>エ 絵で表現する。<br>オ 音楽による表現を考える。<br>2 学ぶ方法を選択し、取り組む。<br>(グループでも個人でもよい。) | ・ 初発の感想や生徒の実態を<br>基に学ぶ方法の選択肢を用<br>意する。<br><b>視点1 発達の最近接領域<br/>(ZPD)に基づいた<br/>選択肢を用意する。</b><br><b>視点2 学習過程を把握さ<br/>せる。</b><br><b>視点3 ア～オの学習方法<br/>の留意点を提示する。</b> | 【評価規準】<br>『たけくらべ』の内容や解<br>釈を踏まえ、人間、社会、自<br>然などに対するものの見方、<br>感じ方、考え方を深める。(思<br>考・判断・表現)<br>【評価方法】<br>記述の確認 |
|   | 4 |  |   |   |
|   | 5 |  |   |   |
|   | 6 |  |   |   |
|   |   |  |   |   |
|   |   |  |   |   |

|     |   |   |   |   |
|-----|---|---|---|---|
| 第三次 | 7 | 1 ア～オの順で発表することで読み味わえることを理解し、発表する。               | <b>視点4 読み味わせるための発問をする。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「発表を聞いて、理解できたこと・更に知りたいこと」について確認させる。</li> <li>初発の感想を返却し、授業前と授業後の作品の読み味わいについての自らの変容を実感させる。</li> </ul> | <b>【評価規準】</b><br>言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを主体的に身に付けるとともに『たけくらべ』の内容や解釈を踏まえ、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)<br><b>【評価方法】</b><br>記述の分析 |
|     | 8 | 2 ア～オの発表によって一人一人が読み味わえたことを発表し共有する。              |   |   |
|     | 9 | 3 ア～オの発表を通して分からなかったこと・分かったことを級友で共有し、単元の振り返りをする。 |   |   |

(筆者の実践を基に作成)

**視点1 発達の最近接領域(ZPD)に基づいた選択肢を用意する。**

どのような方法で『たけくらべ』を読み味わうか、教師がその選択肢を用意する際、次の2点に気を付けたい。1点目は、その選択肢が生徒にとって魅力的なものか、2点目は、方法としての言語活動が目的になっていないか、ということである。

ヴィゴツキー(1990)は、全ての学習者には自分一人のできる領域と、まだ自分ではできない発達可能な領域があることを理論化した。そしてその間の領域を「発達の最近接領域(Zone of proximal Development=ZPD)」と名付け、その領域で級友と協力して取り組んだり、教師の助言を基に取り組んだりして発達可能な(いずれ一人でできるようになる)新たな領域に高められると主張しており、言語活動を設定する際にこのZPDを取り入れて考えると表1のようになる。

表1 発達の最近接領域と言語活動の設定例

| チャレンジのレベル  | 生徒の取組のレベル  |
|--|--|
| <b>学ぶことが難しすぎる</b><br>【例】樋口一葉の他の作品を読んで『たけくらべ』と比較して読み味わう           | <b>過度のイライラでやる気を失ってしまう</b><br>本の選定が難しい<br>文語体で読むのに時間がかかる  |
| <b>学ぶことは適度の難しさ(発達の最近接領域)</b><br>【例】前単元で学んだリライトに取り組む、言葉に注目して読み味わう | <b>楽しくチャレンジできることが、取組のレベルを増す</b><br>取り組んだことのある言語活動でイメージしやすい<br>文語体の文章をリライトすることは難しいが言葉に注目すると読み味わえるということである |
| <b>学ぶことが簡単すぎる</b><br>【例】語句を調べて穴埋め式のワークシートに書き込み発表することで読み味わう       | <b>過度の退屈でやる気を失ってしまう</b><br>自分で着目したい言葉や表現を探す前に、学ぶべきことが与えられており、主体的に学べない                                    |

対象クラスの生徒は、普段はおとなしいが、自分の考えを表現する際には、豊かな感受性を存分に発揮し、また、芸術面における感性と文学を読み味わうことのコラボレーションを楽しめる生徒もいることから、学ぶ方法についてア～オの選択肢を用意した。

**視点2 学習過程を把握させる。**

生徒にア～オの言語活動の内容と発表順を示す際に、どのような学習過程が学習課題を解決するのに有効かを生徒に考えさせることが必要である。今回は、作者・作品の背景(ア)→教科書の『たけくらべ』のリライト文(イ)→詩・絵・音楽における表現(ウ、エ、オ)という順序で発表することで読み深め、読み味わえることを生徒と確認し、その上で言語活動を選択させた。

**視点3 ア～オの学習方法の留意点を提示する。**

ア～オの言語活動が目的ではなく、読み味わうための方法として有効であるよう留意点を設けた。

### ア 作者・作品の背景を調べる

作者について知りたいことや疑問点は級友の初発の感想からも拾い上げる。

作品については、教科書の所収場面以外から印象に残った場面を紹介すること。その際、気になった表現についても発表する。

### イ リライトする

自分だけではなく、級友の初発の感想も手掛かりにして、難しい表現や気に入った表現などについて自分の言葉で表現してみる。発表の際は、注目してほしい文章については線を引いておく。

### ウ 詩と比較する

『たけくらべ』の世界観を既存の詩と比較させるために、現代の詩だけではなく、『たけくらべ』の時代の詩との比較もする。

〈ア、イ、ウの学習過程〉 精査・解釈【①】

ときどき誤聴をはってしまふ  
うれしいのにうれしくない顔をしたり  
キズついているのに平気なフリをしてみたり  
得意なのにワザとイヤなことをしたり

ときどきせつない

P366. 210 ~ P367. 215

① 書きとたけくらべを比較してみよう!!!

**共通点** (いつかの美登利) 信知と話すとき、恥ずかしくて、笑いがあつた。言葉もたたく。文句を言うのも、からかいたいのも、信知が好きだから。

**相違点** (この日の美登利) 物も言わず、心の中だけでうじうじしている。キズついているのか、好きを言いたくないのか、言葉ではなさそう。

←現代詩との比較

同時代(島崎藤村『初恋』)との比較→

この『初恋』という詩は、樋口一葉と同時代の島崎藤村という人物によって書かれた詩である。この人が書いた『恋』という本には、少しだけ一葉が出てくる。ふたりに似ている友人であった。

さて、『初恋』という詩は果たして本当に初々しいイメージの『初恋』なのかといふことを考へてはならない。

わがこころなきためいそぎのその髪の色にかへるとき  
つてかへりなきためいそぎの髪の色にかへるとき  
少年の恋ではなく、青年の恋、  
大人になってしまふ少し前の美しく若い恋の歌なのだ。

島崎藤村

### エ 絵で表現する

『たけくらべ』の世界観を絵で表現する際、どのような点を工夫したかということが分かるように、簡単なレポートを作成し、自分の考えを示す。

〈エ、オの学習過程〉 考えの形成、共有【②】



←表現した絵

何に着目し、どのような工夫をしたかの説明→

～『たけくらべ』を絵で表す～

場面：美登利が信知に、折敷の山を、川でたたく場面 (P.366, 212)

**工夫した所**

- 折敷の山を表現して、美登利の心情や折敷の山を表現した。
- 強い色で折敷の色を表現した。
- 折敷の山を表現した。
- 二人の心遣いから、折敷の山を表現した。

**使用した花**

ツバキ、アサギ

オ 音楽による表現を考える

なぜその曲を選んだのか、根拠を基に自分の考えを示す。

① 音楽による表現

曲名: SENTIMENTAL JOURNEY

橋本 美帆

たけくらべ

美登利の天真爛漫な性格

信知に夢を言われないように

信知は

谷本ひろみ

こころ

雨

霧が降りた瞬間

恋の始まり

恋の始まり

恋の始まり

## 視点4 読み味わわせるための発問をする。

〈学習過程〉 考えの形成、共有【②】

発表の際、ア～オの言語活動を組み合わせて考えることが読み味わうことにつながると考える。例えば、音楽による表現の発表の際に「この雨はどんな雨かな。」「どうしてそう思ったの。」「では、雨の描写をリライト文で見てみよう。」というように、一つの表現を皆に注目させ、生徒が言葉による見方・考え方を働かせることができるような発問をすることで、思考を深めさせていくことが必要である。

## 4 まとめ

生徒が学習課題を解決するための学習過程を把握し、言語活動を自ら選択できれば、生徒が主体的に取り組む授業が実現する。生徒の実態に合わせ、教師主導ではない主体的な学びの中に、更に協働的、教科横断的な視点を取り入れ、生徒とともに豊かな授業づくりを目指したい。

—引用・参考文献—

- 独立行政法人大学入試センター 2021年度 大学入学共通テスト
- 中央審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」令和3年1月
- マイク・エンダーソン著 『教育のプロがすすめる選択する学び』2019年 新評論
- 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』平成30年3月
- 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』平成30年7月 東洋館出版社

(教科教育研修課 梅本 かおり)